

-■11/12 フォーラム発言要旨（メモ）-----

-株三菱UFJリサーチ&コンサルティング政策研究事業本部執行役員 加藤義人

【緒言】

社会資本整備に関する評価に長年携わってきた。社会資本の世界では事業の意義を評価する「事業評価」というプロセスがある。事業評価には事前評価と事後評価があり、事前評価では B/C（費用便益費＝費用対効果の指標）を推計して投資意義を確認し、事後評価では B/C の検証が行われる。一方、近年は事業評価とは別に「ストック効果の確認」に注力されており、社会資本の整備によって地域社会にどのような変化が生じたのかについて、現象面の効果事例を収集することにより、社会資本の役割と意義に関して理解を深める情報として活用される。この二つをベンチマークとして意見を述べる。

【事業評価とストック効果分析の特徴と課題】

事業評価は B/C（50年便益÷ライフサイクルコスト）>1.0 を確認する定量的な評価である。但し、便益は経済効率性に基づいて算定されるため、過疎地等の道路はスコアは悪い。公平性が定量化されていないためである。このため、過疎地の道路では、必要性を訴えるために、非市場財の定量化（安心感や誇りといった通常は貨幣価値と見なされない項目を貨幣換算する事）を長く試みてきているが定着していない。つまり B/C は事業を横並びで客観的に評価できる点で明確性があるが、公平性の観点が不十分であるため、都市部優先の評価傾向となることが課題である。

一方、ストック効果分析は、B/C の便益という指標に埋没している種々の現象（例：企業が立地した、物流が迅速化した、観光客が増えた等）を事例集として表現するもので、定性的な分析である。事業の果たしている役割や意義が分かりやすい反面、効果の多寡を比較する事には不向きである。

尚、この双方に共通している事は、社会資本の効果項目が体系的に整理されている事である。この体系にある項目の何を対象に論じているかが明確になるためである。

【市民活動の評価に向けて】

定量的な評価は大切である。但し、効果計測の有する固有の課題を共有しながら使う姿勢が必要と考える（社会資本の公平性の観点のように）。このため、一定の専門家により計測され、評価される事が望ましい。この際、市民活動の効果体系を整理し、どの項目はどのような指標で評価する事が適切なかを論じておく事が必要だと思う。

一方、ストック効果のように定性的評価は、広く一般的な理解を促す上で効果的だと思う。

定量的評価は、専門家によってなされるべきと考えるが、その意義は過大投資や安易な投資を抑制する上で有効だと思う。これに対し定性的評価は、理解者を得るために有効だと思う。民間公益活動資金ファンドが寄付者を募っていくためには後者に優先的に取り組み（ファンド組織が独自に検討が可能ではないか）、前者は専門家の研究・検討に委ねるという棲み分けができるのではないか。